とちぎYMCA　みつかる。つながる。よくなっていく。

NO.404　2025
OCTOBER

YMCA News 10

2025年10月1日発行
公益財団法人とちぎYMCA
〒321-0904
宇都宮市陽東4-18-30
TEL:028-624-2546
FAX:028-624-2489
https://www.tochigiymca.org
発行人/塩澤 達俊
編集人/公益財団法人とちぎYMCA

つながり

とちぎYMCAユースボランティアリーダー
秋山　昊翔（ボビーリーダー）

私にとって「つながり」とは、ただ一緒に時間を過ごすことではなく、年齢関係なく互いの存在を認め合い、心に残り続ける関係だと思います。これまで参加したキャンプ通して、そのことを強く実感する出来事がいくつもありました。今年のサマープログラムの希望フォームには、私は「どうしてもふくしま湖畔キャンプに行きたい」と書きました。理由として、「リーダーとして最も記憶に残っている活動であり、YMCAに入れたことが幸せだなと感じた活動でもあったからです。去年、ふくしま湖畔キャンプに参加したことが、私の人生の中の財産です。そのため今年は、人生の中の財産をもう一つつくりたいと思っています。」と応募フォームに書きました。実際に、去年一緒に湖畔キャンプに参加したリーダーたちと会うと、必ず当時の思い出話に花が咲きます。楽しかったこと、ちょっとしたハプニング、突然のゲリラ豪雨、夜の湖畔の空気など…。そのどれもが私たちを再びつなぎ合わせる大切な思い出となっています。私には、2泊3日のキャンプをグループリーダー(子どもと一緒)として3回一緒に過ごしたメンバー(活動に参加する子ども)がいます。そして、私の持っているパンツの色や柄まで把握している子がいました。それほど濃い時間を共有した証だと思います。願いが叶い、行くことができた今年のふくしま湖畔キャンプでは、私はグループリーダーではなくプログラムリーダー(キャンプ全体の管理)だったため担当にはなりませんでしたが、キャンプファイヤー後にその子から「ボビーよく頑張ったよ、楽しかった」と声を掛けられました。たった一言でしたが、今でも鮮明に蘇ります。そして、この夏1番の思い出であり、心の底から頑張って良かったと思える瞬間でした。そして誰の言葉よりも、その子の言葉が胸に響き、誰よりも嬉しかったのを覚えています。立場は変わってもつながりは消えず、むしろ深まっているのだと実感しました。そして私の中で、その子の存在がとても大きな存在となっていたことを初めて気づき、ちょうど一年前にできたつながりが、YMCAの活動の中でこんなにも大きなつながりとなっていたことに驚きを感じました。

さらに、東日本ユースボランティアリーダーズフォーラムに参加したことも、私のリーダー人生の中で大きな転機となりました。そこで出会ったあるリーダーの姿に「こういうリーダーになりたい」と心から憧れる気持ちが生まれました。人の原動力は、楽しさや目標だけでなく「憧れ」であると実感しました。実際、フォーラムから帰ってきた後、私は初めてギターに挑戦しました。YMCAの活動では多くの歌を歌いますが、その音色を自分の手で奏でたいと思いました。加えて、私が憧れているリーダーがとても楽しそうにギターを弾いていたことも大きな動機でした。少しでもそのリーダーに近づきたいという一心で練習を始め、今も続けています。この夏はこうした経験を通して、「私はまだまだ成長できるし、成長しなければならない」と強く感じるようになりました。私には将来、小学校教師になりたいという夢があります。自分が憧れる教師像があり、そのような先生になることを目指しています。リーダー人生の中で「こんなリーダーになりたい」と思える存在に出会えたことは、本当に幸せなことでした。あの出会いがあったからこそ、自分の理想に向かって努力し続けたいと心から思えます。そして、リーダー人生を通して学んだことを、自分の将来の夢につなげたいと切に願います。

振り返れば、この夏は子どもからの刺激、リーダーからの刺激、そしてYMCA環境そのものからの刺激を数え切れないほど受けました。それらはすべて「つながり」が生み出したものでした。子どもたちの笑顔や言葉、リーダーたちとの関わり、憧れの存在との出会い。それらが私を成長させ、次の一歩を踏み出す原動力となっています。これからも私は、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。YMCAというつながりがある限り、共に過ごした時間が、これからの自分の力になり、未来の夢へと続く財産になると信じています。そして、自分自身もまた、誰かにとって「つながりを感じられる存在」となれるよう、歩みを止めず挑戦を続けていきたいです。

とちぎYMCAの使命

～みつかる。つながる。よくなっていく。～

2025年度とちぎYMCA年間聖句
《善きサマリア人》の喩え

新約聖書　ルカによる福音書　第10章25節～37節

認定こども園 さくらんぼ幼稚園

おたのしみ会

9月10日・11日の2日間、敬老の日を記念し園児のおじいさんおばあさんをご招待しておたのしみ会が開かれました。この日のために、子どもたちは感謝の気持ちを込めて絵のプレゼントを製作し、おじいさんおばあさんに喜んでもらいたい一心で歌や体操の練習も一生懸命頑張ってきました。舞台に立った時にはやや緊張の面持ちでしたが、来てくださった皆さんが笑顔で優しく迎えてくださりほっとした様子でした。

今までの練習の成果を十分に発揮して元気いっぱいに発表することができました。歌の時間には、おじいさんおばあさんも子どもたちの歌に合わせて口ずさみ、一緒に楽しんでくださいました。発表を終えると、会場から大きな拍手が送られ、子どもたちの表情にも達成感と喜びの笑顔が広がりました。体育館の中はたくさんの笑顔であふれ、心温まる素敵なおたのしみ会となりました。

ようとう保育園

1歳児（たんぽぽ組）
すくすく成長 しています！

4月より18名でスタートしました。初めてのことばかりで「何が始まるんだろう？」と、最初は活動に参加するよりも周りの保育士やお友だちの様子を見ていることが多かった子どもたちですが、保育士と一緒に身体を動かしたり、様々なものに触れたりする中で、砂、泥、水遊びへの興味が湧いてきました。

この夏は、感触あそびをたくさん取り入れました。小麦粉粘土では、手でこねたり、ちぎったりして、子どもたちは楽しそうに笑顔を見せてくれました。特に人気だったのは、食紅で色を付けた寒天や春雨です。手が赤くなり「あかー！」と手のひらを見せながら、新しい発見に出会った子どもたちの表情はとてもいきいきしていました。感触あそびを通じて、異なる質感や温度などを感じることができ、手指を細かく動かすことで、器用に遊べるようになってきました。引き続き安全に気をつけながら、安心できる環境で子ども一人ひとりの成長に繋がるあそびを充実させていきたいと思います。

こどもの家 瑞穂野南小 めだかっ子クラブ

秋になっても・・・夢中！？

猛暑続きの夏休みでしたが、その中でも今年で2回目となる栃木県初のトップレベル男子バレーボールチームの「レーヴィス栃木」さんをお迎えして、バレーボール教室を開いていただきました。選手２名とコーチ・広報の方からそれぞれ１名来てくださり、“ボールと慣れるため”にボールを使った遊びを、次から次へと教えてもらいました。それから、レシーブの練習、スパイクの練習、そしてサーブの練習をして試合もしました。子どもたちの中では、「もっとやりたい！！」という声が上がるほど楽しかったようです。

それからというもの、外遊びに出るとすぐに「バレーボールをしよう！」と子どもたちの中から呼びかけ合う姿が見られます。全員で一緒にやるときもあれば、高学年は高学年同士、低学年は低学年同士でやることもありますが、バレーボールをやらない日はなく、「バレーボールクラブに入れば？！」という声が上がるほど上達しました。9月に入っても毎日暑い日が続いていますが、バレーボールの人気は衰えていません。

国際

今夏、たくさん思い出ができました！

とちぎYMCAでは、夏にアメリカの高校生を受け入れる、グローバルスタディキャンプがあり、たくさんの方々に関わっていただきました。各々平和を担う一員として、よい機会になりましたらうれしく思います。

とちぎYMCAでインターンとして活動させていただきました。活動を通して、多様なバックグラウンドを持つ方々と関わる機会があり、異文化に対する理解が深まる貴重な体験となりました。私は現在、大学で教育について学んでいます。将来は教育関係の仕事に携わりたいと考えており、今回のインターンでの学びは、まさにその土台になると感じています。特に、英語教育を通して国際理解を促進し、地域の子どもたちが多様な価値観に触れられるような場所づくりに関わっていきたいという思いが強くなりました。これからの社会には、文化や言語の違いを越えて他者と理解し合える力が求められます。今回の経験を活かし、将来的には栃木の国際交流をより活性化させられるような教育者を目指していきたいです。

デイホーム きよはら

～納涼祭～

８月は２日間にかけて納涼祭が開催されました。

普段とは違って職員も浴衣に変身！！浴衣姿を見るだけでも皆さんの表情がいつもと違いましたね。南投YMCAの学生さん、アットホームの子ども達、めいめいの子供達、職員の子ども達が露店の店員になって、射的・輪投げ・金魚すくい・ヨーヨー釣り・かき氷とお祭りらしい雰囲気を味わっていただきました。

宇都宮市 まちづくりセンター まちぴあ

『推し活グッズ作り』を開催しました！

2025年7月25日(金)宇都宮市まちづくりセンター「まちぴあ」にて、『推し活』をテーマにした交流イベントが開催されました！

アニメ、アイドル、キャラクターなど、さまざまな“推し”を応援する「推し活」。今回は、その“好き”をきっかけに人と人とのつながりを生み出す、ワークショップ型イベントを実施しました。内容は、ホイップデコを使って自分だけのオリジナルトレカケースを制作するというもの。小学生から大人まで、幅広い世代の方々にご参加いただきました！イベントでは、「推し活プロフィール帳」の記入やグッズの紹介などを通じて、ジャンルの垣根を越えて盛り上がり、お互いの“推し愛”を語り合う温かい交流の場となりました。共通の趣味が見つかったり、新しいジャンルを知ったりと、会場は大盛りあがりでした。

今回のテーマは『推し活からできるまちづくり形成』。

「好き」という気持ちが人の行動の原動力になり、それを共有できる空間が、新しいつながりや地域コミュニティを育てるきっかけになる――そんな思いから、このイベントは企画されました。参加者からは、「楽しかった！」「また参加したい！」という声も多く、世代を超えて“推し”を通じて繋がることができた、特別なひとときとなりました。

今後も、推し活を通じたまちづくりの輪が広がっていくことを願っています。

サマープログラムを実施しました。

とちぎYMCAではこの夏、子どもたちの全人的成長を願い、サマープログラムを実施いたしました。それぞれのプログラムでは「体験のその先にある成長」をテーマに実施し、自然の恵みを通して、「協力する」ことの楽しさや大切さ、「人とのつながり」を持てる嬉しさを心で感じることができました。

日光ほしぞらキャンプ

「プロフェッショナル」をテーマに、川遊びやキャンプファイヤーなど自然体験に親しむ子どもたちの姿が印象的でした。3日間の特別な体験は、笑顔が輝く時間となりました！

ふくしま湖畔キャンプ

キャンプでは呪いを解く冒険プログラムに挑み、湖水浴やスイカ割り、夜はキャンプファイヤーや森の精霊探しを楽しみ、テーマである「自然と生きる」を体感しました。

さしまチャレンジキャンプ

変身グッズを作り、アイテムカードを集め、全員で声を合わせて呪文を唱え、ボスを倒しました。二日間を通して変身グッズがなくても自分のことは自分ででき、困っている友だちを助けられる、レベルアップした姿に変身できたキャンプとなりました！

冬休みのウインタープログラムは
11月から申込み開始予定です。
今後もとちぎYMCAシーズンプログラムを
よろしくお願いいたします！

地域の力を高める・
若者の力を信じる

福島から学びました ―福島スタディツアー―

近年、さまざまな自然災害がおこる日本において“備える力、気づく力を高めていきたい”そんな思いから7月12日、宇都宮市まちづくりセンターが主催で「福島スタディツアー」を実施しました。当日は大学生や高校生10名と引率スタッフ2名、合計12名が集いました。

福島スタディツアーに参加した若者たちは、現地での体験を通じて多様な感情や気づきを得ました。伝承館では、震災の記憶や原発事故の影響を肌で感じ、「静けさや祈りの背後に、痛ましい思いの積み重なりを感じた」「14年経っても人が戻らない現状に、福島の人々の“忘れないで”という叫びが伝わってきた」といった声がありました。一方で、被災地で再開されつつあるお祭りの展示を見て、「地域の資源や経験を発信し、復興につなげることの大切さを感じた」と前向きな意見も聞かれました。

語り部講話では、避難や差別の現実に触れ、「同じ福島県民なのに、避難先でいじめに遭った話が印象的だった」「放射線という目に見えない恐怖や、被災者への偏見の難しさを実感した」との感想がありました。「震災について学んだ時点で、被災者の想いを受け止める責任が生まれる」と、当事者目線で考える姿勢も見られました。

報告書リンク➡

浪江町立請戸小学校では、津波の被害や避難の様子を知り、「全員が無事避難できたことに教職員の判断力の大切さを感じた」「津波の威力や被害の大きさに言葉を失った」といった声がありました。バスでの地域散策では、「かつて人が住んでいた家が空き家になっている現実に寂しさを感じた」「放射線量の表示に恐怖を覚えた」との率直な感想もありました。

全体を通して、「日常や人とのつながりの大切さを実感した」「自分にできることを考えたい」「震災の記憶を風化させず、学びと支援を続けたい」といった前向きな思いが多く語られました。参加者一人ひとりが、被災地の現状や人々の思いに真摯に向き合い、自分自身の成長や今後の行動につなげていく姿勢が印象的でした。

みんなでワイ・Yさくらんぼバザー2025を開催します!

【日時】11月3日（月・祝）
【時間】10時30分～13時30分
【会場】YMCAさくらんぼ幼稚園

とちぎYMCAでは、会員・地域の皆さまと一緒に楽しめるバザーを開催いたします。
収益は子どもたちの活動やYMCAプログラム整備に役立てます。
どなたでも参加できますので、みんなで楽しいひとときを過ごしましょう！

出店内容やプログラムの詳細は、YMCAホームページで順次お知らせしていきます。ぜひご覧ください。

塩澤総主事の、

大勢の中にいると思っていたら知らぬまに少数派になっていたということがあります。日向で昼寝をしていたらいつの間にか太陽が動いて陰ってしまったという感じでしょうか？
例えば、わたしは新聞購読者ですが少数派です。新聞の宅配割合は2015年に100世帯中80だったのが2024年には100世帯中45となり、今や新聞をとっている世帯は2軒に1軒に満たない少数派になりました。
携帯電話の番号もそうです。「090」は携帯向けに導入された“最古の番号帯”で、番号不足で登場した「080」とPHSの「070」が携帯番号として流用されて以降、少数派だそうです。若い人からは「090は古い」「おじさん番号」と揶揄され「最近は080や070が多く、090が出てくると驚く！」といった声もありビックリ！です。
ところで、世界を見渡すと「民主主義」にも似たようなビックリ！があります。
出どころはスウェーデンに拠点を置く国際研究機関V-Demによる『Democracy Report 2025』です。
このレポートでは世界の国々を4つのカテゴリー（リベラル民主主義、選挙民主主義、選挙的権威主義、閉鎖的権威主義）に分類しています。それによると、民主主義体制の動向は「リベラル民主主義（日本はここに属します）」が29か国にとどまり過去50年間で最少！また「民主主義体制」と「権威主義体制」の国家数比は88対91で「権威主義体制国家」が勝る、かつてない逆転現象が起きているそうです。しかも、民主主義国家の中では政治的分極化や偽情報の拡散が民主主義の健全を脅かしつつあり、世界45か国で民主主義から権威主義への後退が進行中とされています。
レポートは、現在は「民主主義の縮小と権威主義の拡大」という歴史的局面にあり、特に「リベラル民主主義」は人口・国数とも少数派となっているとまとめています。世界の「民主主義体制」の少数派化が加速しているとはビックリ！日本のデモクラシーも昼寝をしている場合ではないですね。

V-Dem INSTITUTE

〈敬称略・順不同〉

正木　敬子	田巻　秀樹	矢部　万紗人	佐藤　隆久
種ヶ島　和洋	田上　中	村山　直樹	鷹箸　孝
大山　真貴子	福田　隆男	山﨑　敦子	里村　美奈
齋藤　仁	増山　律子	布川　武男	福本　知恵子
橋本　寿夫	鈴木　翔太	川上　聖子	大島　清子
長谷　範子			

とちぎYMCA　維持会員・法人会員

2025.7-8 MONTH

THANK YOU FOR ACTION.

現在の《とちぎYMCA》は、社会の資金で賄われる制度事業の“外側に新しい活動”を拡げております。
官と民間の活動をあわせもつYMCAですが、みなさまからの貴重な寄付によって、フレキシブルで、創造的で、ボランタリーな部分を表現する最もYMCAらしい活動を継続することができます。みなさまのお支えによって続けられますことに感謝申し上げます。

【新規申込み方法】
□お電話（028-624-2546）資料をお送りいたします。
□ホームページより（QR コード）
□各YMCA 事務所にて
【継続申し込み】
維持会員費をお支払いください。
□ホームページより（QR コード）
□各YMCA 事務所にて